

2021年2月24日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2021年1月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	60,178,429 万円	100.0%	105.6% (104.2%)	58,667,317 万円	104.3% (103.2%)
食 料 品	52,143,217 万円	86.6% (85.9%)	107.9% (105.4%)	50,770,241 万円	106.4% (104.2%)
農 産	7,854,308 万円	13.1% (12.0%)	110.1% (103.4%)	7,649,198 万円	108.7% (102.2%)
水 産	5,085,368 万円	8.5% (9.2%)	106.5% (106.6%)	4,947,529 万円	104.9% (105.2%)
畜 産	7,111,882 万円	11.8% (11.5%)	111.1% (109.3%)	6,919,376 万円	109.5% (108.0%)
惣 菜	5,929,774 万円	9.9% (9.9%)	101.0% (102.6%)	5,750,725 万円	99.3% (101.1%)
日配食品	11,569,777 万円	19.2% (18.6%)	107.8% (105.6%)	11,266,269 万円	106.4% (104.4%)
加工食品	14,592,109 万円	24.2% (24.6%)	108.7% (105.2%)	14,237,145 万円	107.5% (104.1%)
生活関連	3,628,334 万円	6.0% (6.2%)	102.5% (104.0%)	3,553,061 万円	101.7% (103.5%)
衣 料 品	1,292,834 万円	2.1% (2.2%)	83.1% (89.7%)	1,281,047 万円	83.3% (90.3%)
そ の 他	3,114,045 万円	5.2% (5.7%)	87.6% (93.8%)	3,062,968 万円	87.5% (94.1%)

② 数 値

全店総売上高	60,178,429 万円	店舗数	4,844 店舗
総売場面積	9,490,602.4 m ²	総従業員数	267,777 人
店舗平均月商	12,423.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,144.5円 (109.8%)
月間m ² 売上(前月)	6.3 万円 (7.5万円)	平均売場面積	1,959.2 m ²
月間坪売上(前月)	21.0 万円 (24.7万円)	パート比率(前月)	77.5% (77.3%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 1月の天候概要について、気温は上旬は低く下旬が高くなり、気温の変化が大きかった。東日本の日本海側では降水量がかなり多く、記録的な大雪となった所もあった。西日本の日本海側では日照時間はかなり多く、晴れの日が多かった
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物では、野菜が土物や根菜を中心に高値となり、果物ではイチゴやミカンが安値となった。水産物は、入荷量がやや減少したもののやや安値となり、畜産物では、豚肉と鶏肉が高値となった
- ・ 前年に比べ土曜・日曜日が1回多く、水曜・木曜日が1回少ない曜日回りであった
- ・ 新型コロナウイルス感染症が中国からWHOに報告されて約1年が経ち、第3波のピークを迎えた。1月7日に1都3県に2度目の緊急事態宣言が出され、つづく13日には7府県が追加となり、県独自の緊急事態宣言や時短要請などを出すところもあったことで、外出自粛による肉食需要は拡大し、初回の緊急事態宣言時同様に生鮮品や保存性の高い食材、衛生用品の伸びが見られた

《 商品動向 》

○農産

- ・ 気温が低いことから、白菜や長ネギ、キノコ類の鍋物商材が好調であった
- ・ 土物類は高値の影響もあり好調であった
- ・ 七草が好調とのコメントがみられた
- ・ 国内果実では、イチゴやミカンが潤沢な量と売り込みやすい価格により好調であった
- ・ 輸入果実では、バナナが好調であった

○水産

- ・ 鍋商材のタラや牡蠣は気温の低下と売り込みやすい価格で好調であった
- ・ ブリは鍋用、刺身用ともに積極的な売込みもあり好調であった
- ・ 肉食需要拡大の影響もあり、ウナギが好調であった

○畜産

- ・ 豚肉はスライスしゃぶしゃぶ用をはじめとして、好調であった
- ・ 鶏肉やひき肉、ハム・ソーセージ類も好調であった
- ・ 牛肉は好調であるものの、和牛では好不調が分かれた
- ・ 正月後は切り落としや味付けなどの通常商品が好調とのコメントが見られた

○惣菜

- ・ 米飯、特に弁当が好調であるとのコメントが見られた
- ・ 天ぷらや揚げ物は好不調が分かれた
- ・ 帰省客の減少により寿司は不調であった
- ・ 恵方巻予約が好調であるとのコメントが見られた

○日配食品、加工食品

- ・ 気温が低いことから、ラーメンをはじめとした麺類や練り製品、鍋つゆなどが好調で、飲料は不調であった
- ・ テレビ番組の影響もあり、納豆が好調であった
- ・ 冷凍食品やデザート、アイスクリーム、牛乳やチーズが好調であった
- ・ インスタント食品、パスタ、スープ、調味料、菓子、酒類が緊急事態宣言の影響もあり好調であった

○年始の動向や営業状況について

- ・ 年始の営業開始日について、「2日より営業」が最も多く、続いて「元日から営業」が多かった。今年はお正月の店休日を増やす企業が見られた
- ・ コロナ禍による帰省客の減少により、生鮮大型パックの刺身・和牛やにぎり寿司やオードブルの販売が不調であった
- ・ 1～2人前の寿司や、漬け魚やラーメンなど普段の食が好調であったとのコメントがみられた
- ・ コロナ禍や正月休業日数の拡大によりお正月企画のくじ引きやお振舞、福袋販売等の中止や内容の見直しが見られた